

### 子ども達により多くの経験を

8月7日、花壇の苗植えを各地区で行いました。当日は美化デーということで、終了後行っていただけけるよう日程を合わせたことにより、親御さん含め228名という多くの方に参加していただくことができました。コロナ第7波というまだまだ予断を許さない



中でしたが、屋外活動ということで、感染対策をとりながら行いました。

今回はアメリカカンブルとポーチュラカの2種類の苗を準備しました。私の地区は公園に花壇があるので、通りかかった地区の方や遊びに来た方の目の保養になればとの思いを込め、カラも何種類か準備しました。子どもたちは親御さんや仲間と協力しながら土に触れ、苗植えを行うことができました。最後に自分達が植えた

た花に水をあげるにより、愛着も湧いてくれたらいいなあと考えています。

ここ数年コロナ禍による行事や活動の中止、縮小により集まる事が出来なかったため、私の地区ではこの花壇活動が初の集まりの場となつてしましました。コロナの感染状況を確認しながら子どもたちの活動が少しでも増え、多くの経験が出来るよう、残り半期も携わってきたいと思ひます。

今回苗植えに参加して頂いた方には改めて感謝を申し上げます。11月中旬にも花壇の苗植えを予定しておりますので、みなさま引き続きご協力をお願いします。

令和4年度子ども会育成会  
会長 宮野未愉

### 表佐野球少年団



### がんばる表佐の子

10月8日に表佐クラブ6年生として最後の大会になる町総体の試合がありました。

最後まで諦めず試合に望みましたが、一回戦で負けてしまいました。しかし人数が少ない中、今年度は垂井クラブとの合同



チームになり、多くの子と楽しく練習でき、さらに多くのことを学んだと思います。

明るく、仲の良いチームなので、野球だけでなくスポーツに興味がある方、運動を始めようと考えている方は一度気軽に見に来てください。楽しくみんなで作ります。



11・12月の休館日	
11月1日(火)	12月6日(火)
4日(金)	13日(火)
8日(火)	20日(火)
15日(火)	27日(火)
22日(火)	29日(木)
24日(木)	~
29日(火)	1月4日(水)

行事・講座・教室名		
実施日	時間	場所
表佐地区スポレク大会 ラダーゲッターとキンボールを楽しみます		
11月13日(日)	9:30~11:30	南体育館
いきいきふれあいサロン 健口教室 歯は健康のもと		
11月17日(木)	10:00~11:30	表佐まちセン
ちさと子ども教室 ショートテニスを楽しみましょう		
11月19日(土)	9:30~11:30	表佐小体育館
寄せ植え教室 年末年始を彩る一鉢を(募集中)		
11月25日(金)	14:00~15:00	表佐まちセン
表佐地区文化展示会 コロナに負けない文化の華を咲かせましょう(農産物展、作品展出品募集中)		
11月27日(日)	9:00~16:00	表佐まちセン

### 11・12月の行事・講座

新型コロナウイルスの感染状況によって、延期・縮小・中止場合があります。その場合には、回覧やホームページ等でお知らせします。

表佐地区防災訓練 避難所の開設訓練を行います		
12月4日(日)	9:00~12:00	表佐小体育館
料理教室 おせち料理にもう一品(募集中)		
12月10日(日)	10:00~13:00	表佐まちセン
ダンボールコンポスト講習会 生ゴミを資源に(募集中)		
12月12日(月)	13:30~14:30	表佐まちセン
いきいきふれあいサロン クリスマスお楽しみ会		
12月15日(木)	10:00~11:30	表佐まちセン
ちさと子ども教室 (花餅作り・餅つき大会)お正月を彩る飾り		
12月17日(土)	9:30~11:30	表佐まちセン
ちさと子ども教室 (門松づくり) 玄関に飾る門松を作ろう		
12月24日(土)	9:30~11:30	表佐まちセン

表佐まち協だより

# ちさと

2022年11月1日  
表佐まちづくり協議会  
垂井町表佐1723-1  
Tel・Fax22-1011  
Mail:osakou@town.tarui.lg.jp  
広報部会



まち協ホームページへのアクセスはこちらのQRコードから

# 伝統をつなぐ

## 待ち望んだ表佐祭り 3年ぶりに復活



秋晴れに恵まれた10月2日(日)、待ち望んだ地区最大の行事、表佐祭りが開催されました。午前8時の常夜燈、各神社での神事祭祀に始まり、10時から、東西2ブロックに分かれての子ども神輿が、子ども会育成会の皆さんのご協力により表佐地内を練り歩きました。午後からは、祭り最大の呼び物である表佐太鼓踊りがこども園園庭で披露され、秋空のもと大勢の観客が見守る中、園内に大太鼓の勇壮な音が響き渡っていました。夜には、表佐踊り、仁輪加、囃子が、こども園園庭で繰り広げられ、大きな踊りの輪が出来上がっていました。今年度は、9月に予定していた初の試みである小学校と地区民の合同体育祭が、前日来の大雨により地区民の部が中止、小学校の部のみ順延して開催となり、地区民が参加交流できる舞台ができませんでした。

それだけに、今回地域の皆さんが年代を超えて交流できる祭典が実施できたことは、コロナ禍で途絶えかけた地域の連帯・絆といったものがつなげたものと思ひます。祭典委員の皆さんをはじめ祭りに関わっていただいた全ての皆さんにお礼を申し上げます。

中面では表佐祭りを写真で振り返ります



### 防災コーナー

災害への備え3  
モノの備え(2)  
今回は災害発生時のモノの備えについてです。



自宅以外に避難する場合に持ち出す非常用持ち出し品と、自宅で避難生活を送るための非常用備蓄品の2種類があります。どんな物を用意すればよいのかは人によって千差万別です。だれにも共通するのは、命や、体と心の健康を守るための物だということです。基本的な考え方は、

①家屋の状況 (ハザードマップ参考にして)

・震度6に耐えられるか  
・浸水は床下、床上、2階までか

②家族の状況  
・年齢構成  
・健康状態

③避難場所 (地震か洪水かで違う)

・自宅2階  
・避難所  
・親戚  
・車  
・その他  
これらを踏まえた上で、電気・水道・下水道・ガス・通信(電話・インターネット)・交通などのライフラインが止まったときに必要な物を考えることです。

防災ネットワークOSA

### ハリヨ便り

今年の台風は、日本の近くで発生したものが多く、当地では大きな被害はなかったが、線状降水帯による激しい雨で被害が出た地域がありました。地球温暖化のせいから、台風は年々強くなっている感じがします▼その台風を免れて晴天の下、鉦や太鼓の音が3年振りに響き渡った表佐祭り。昼も夜も集まった人々の、喜びと感謝の顔顔。これが絆と連携の伝統行事と痛感した▼巷ではウクライナとロシア、北朝鮮ミサイルや統一教会問題で、喧嘩な様相を呈しているが、明るい兆しは、コロナウィル感染者が減少し、国外からの入国上限の撤廃や全国旅行支援が始まったこと▼11月は新米を炊き神様に捧げる新嘗祭、表佐では27日に文化展示会が開催され、活気づいた地域賑わいがある。まちづくりセンターでお会いしましょう。



夜の祭典 表佐踊り、囃子・仁輪加



天狗に続き囃子も入場 会場の雰囲気も一気に高揚



はじめは小さな踊りの輪が最後に幾重にも大きく広がり最高潮に

祭り最大の呼び物 表佐太鼓踊り



こども神輿



力を合わせていざ出発



玄関先で神輿を揺らして



賑やかに町内を練り歩きます



最後はまちセンへ お疲れ様でした



祭り会場の設営



やぐらの組み立て



やぐらの組み立て



祭りの幟旗



テントの組み立て



提灯の組み立て

祭りの準備・練習



実行委委員会



囃子の練習



表佐踊りの練習



こども神輿の組み立

消防分団による仁輪加



表佐祭典実行委員会  
委員長 多賀茂樹

最後に表佐祭りを終えて強く思うこと……  
「魅力は地域のつながり、そして人にある！」

最後に表佐祭りを終えて強く思うこと……  
「魅力は地域のつながり、そして人にある！」

表佐祭りを終えて  
6月から準備を始めて4月、10月2日(日)3年ぶりに表佐祭りを開催することができました。先輩諸氏をはじめ、自治会、子供会育成会、太鼓踊り保存会の皆さんと共に祭典委員が一致団結して、そして何より表佐地区の皆さんのご理解、ご協力を得ての開催でした。  
一息ついて今思うことは、これまでに感じたことのない地域の連帯・結びつきです。特に表佐踊り、囃子・仁輪加を実施するにあたっては、本当に多くの方とめぐり逢い、そしてお世話になりました。ある方から次の方へ、そしてまた次の方へ……最後にこれが輪になり、この輪がいくつも重なって祭りが出来上がっていきようでした。そして当日、踊りが始まると大きな輪ができて、それが二重になり、囃子・仁輪加が入場した時は賑わいもピークに達しました。この時は、胸に熱いものを感じました。  
しかし、準備を進めるにあたり、いくつかの課題も感じました。高齢化と無関心による伝承の危うさです。伝える取り組みや機会がなく、途絶えてしまう伝統芸能は数多くあると思いますが、表佐踊りの音頭もその一つです。幾人かの方がご高齢でお願いできず、祭典委員がお手伝いをしたものの、音頭を担当いただいた二人の方には大変なご苦労をかけてしまいました。また、囃子については回覧で募集したものの予想通り申し込みはなく、結局3年前までの参加者に頼らざるを得ない状況でした。連合自治会、まちづくりセンター等と協力し、地域をあげての取り組みが必要であると身を持って感じました。